

令和元年7月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和元年7月19日（金）午後1時～午後1時30分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、河北新報、山形新聞、米澤新聞社、読売新聞、置賜日報デジタル、

<市> 市長、秘書広報課長補佐、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 天元台のロープウェイの復旧について、市長はどのような見通しをお持ちですか。
- (2) 市立病院新病棟の設計業者が決まったようですが、どういう特徴を持った病院にしようとお考えですか。着工、完成時期の見通しもお願ひします。

5 内 容

○秘書広報課長補佐

それでは、定刻となりましたので、令和元年7月の定例記者会見を始めさせていただきます。初めに、市長から質問に答えさせていただきます。

○市長

よろしくお願ひします。この度は2つほど質問を頂戴しております。まず「天元台のロープウェイの復旧について、市長はどのような見通しをお持ちですか」という質問についてですが、何よりも早い復旧を願っております。7月2日、設置業者の日本ケーブル本社を訪れて、一日も早い復旧について要望をして参りました。その時の話ですと、ゴンドラはスイス製であり、お伺いした二、三日後にスイスの製造会社から技術者が来るため、その判断を待つてとのことでした。担当の話では、部品はオーダーメイドだったりしますので、すぐにできるかできないかという判断をスイスの業者で行っているとのことでした。

いずれにしても、これから梅雨明けしますと、いよいよ、西吾妻のトレッキングや天元台でのいろいろなイベント等がございまして、今のところは車で湯本駅から天元台の方まで送迎をしているようではありますが、それだけでは十分ではありません。なるべく早く復旧して欲しいということしか、今のところはないなと思っております。

次に二番目の「市立病院新病棟の設計業者が決まったようですが、どういう特徴を持った病院にしようとお考えですか。着工、完成時期の見通しもお願ひします」という質問です。最大の特徴としては、民間病院である三友堂と医療や診療機能を分担す

る医療連携です。このような公立病院と民間病院の医療連携というのは、あまりない訳でありますので、それは最大の特徴なのかなと思っております。また、そういった医療連携に基づきまして、地域医療連携推進法人を設立し、医薬品の共同購入や職員の共同研修などを行えるというメリットもあると思っております。

もう一点は、現在、平日夜間・休日診療所は別に設置をしておりますが、新病院の中に設置するということも特徴だと思っております。いずれにしても、市立病院と三友堂との連携というのは、今後の地域全体としての医療連携というものを視野に入れた新たな病院にしたいと思っております。外見上の特徴などについては今後お伝えすることになるかと思えます。

また、着工と完成時期の見通しですが、着工につきましては2020年、完成につきましては2023年の秋頃ということで計画を立てております。

○秘書広報課長補佐

質問に対する市長からの回答は以上となります。質疑がありましたら幹事社を中心によろしく申し上げます。

○幹事社

はい。ロープウェイに関して質問ですが、直せないということはないのですか。

○市長

日本ケーブル本社にあって写真なども見せていただき、交換するものは交換しなければならないようでした。ただ、変形しているものなどについてはスイスの製造会社に来て、見てみなければ分からないという返事でありました。技術的なことは分かりませんが、一日も早く復旧しなければならないと、スイスに持って行って修理をするということでは日数もかかります。部品がオーダーメイドだということで改めて作らなければならないという話も聞いてきましたので、早めに判断していただき対応してほしいという話はしてきました。

○記者

冬のスキーシーズンに間に合わなくなるのは避けたいですね。

○市長

できれば早めに対応していただいて、どうしても部品を取り換えなければならないのか、日本の中で対応できないのかということ話はしてきました。なんとかグリーン期の中で復旧できれば良いとは思っております。当然、冬場に間に合わないということが起きないようにお願いをする他ありません。

○記者

客足に影響は出ていますか。

○市長

やはり出ていると思います。車で送り迎えはしますと言っても、ロープウェイが動いていないということで影響は出ていると思います。

○幹事社

他に質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

○記者

はい。白布温泉の旅館についてです。やはりロープウェイを利用していたお客様が相当数いるということで、旅館の経営という面でも行政として手を差し伸べる必要があると考えますが、その点はいかがでしょう。

○市長

確かに影響は出ていると思います。ただどの程度の数字になっているのかというのは私自身承知しておりませんので、今後どのような対応をするのかというのはこれからの検討だと思っております。ただ、具体的にこのくらい影響が出ているという報告は来ておりません。

○幹事社

次に2つ目の事項に関して質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。

○記者

着工と完成時期は以前からおっしゃっていたものから変わっていませんよね。

○市長

はい、変わっておりません。

○幹事社

それでは、その他はいかがでしょう。

○記者

この間、市政報告会のあいさつの中で健康長寿の条例を作るとお話しされていましたが、その内容や目的などをお聞かせください。

○市長

はい。これはすでに市民検討委員会の中で検討しており、取り組むのであれば条例化すべきではないかというご意見をいただきました。それぞれのライフステージに応じた「からだどころ」の健康はもちろんのこと、教育、文化、経済、産業、観光、都市基盤の整備等あらゆる政策について「健康」を切り口として市政に反映すると話しており、条例化をしてひとつひとつを明確にすべきではないかということで、市民会議の中でも話は出ましたので、条例化を目指しているという状況です。

この間の市民会議の中でも条例案について、検討をいただきました。目指す時期としては12月定例会で提案したいと考えております。

○記者

名前は仮称で何ですか。

○市長

まだ正確に決まっておきませんが、「健康長寿のまちづくり条例」というような名前にしたいなと思っております。

○記者

こういった条例は珍しいですか。

○市長

これに類似したものはあると思いますが、担当では国で進めていることも踏まえて、米沢らしい独自の条例づくりをという方向性で進めております。

○記者

教育や文化などいろいろな面に健康長寿を反映させるということを明確にするため条例化するというのは、新しい取り組みなのでしょうか。

○市長

市民が「健康で明るく」ということに尽きると思うのですが、その中でも教育分野で言われているいじめ、虐待ということもありますので、教育委員会のそれぞれの施策の中で極力これら無くしていこうという取り組みを含めてという意味で、教育や文化という言葉を使用させていただきました。

○記者

担当部署はどこになるのでしょうか。

○市長

今のところは健康課で行っております。庁内でのプロジェクトチームも作っており、各部から持ち上がってきたものについて、具体的にどうしていくのかという話をしていきます。市民会議の本部長は市長ですが、プロジェクトチームの方は副市長が本部長として取り組んでいます。

○幹事社

12月定例会でということは、市長選挙の後ということですね。

○市長

そうですね。これからいろいろな段取りもありますので、これからしっかりとした成案というものをもう一度市民会議の方へお示ししなければなりません。

○幹事社

市長選に向けての公約のひとつとして考えているのですか。

○市長

公約といいますか、元々これは就任してから健康長寿日本一を目指していくという取り組みでしたので、当然継続しつつ、それに関わっているいろいろな施策の中で行っていくことにしたいと思います。

○幹事社

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○記者

関連して、公約という形になるかは分かりませんが、参院選が終わると4か月後の選挙に向けての動きになると思いますが、改めての公約発表というものはどの時期に行うのでしょうか。

○市長

今の話とは別になるとは思いますが、当然公約というのは今後選挙運動を進めていく中で、お示しをしなければなりません、まだいつというのは考えておりません。

○秘書広報課長補佐

他に質問が無いようですので、令和元年7月の定例記者会見を終了いたします。